



この街が好きだから

武蔵野スケッチ物語

絵と文
大須賀一雄

88

見慣れた風景も、絵になるとちよっと違う趣が出てきます。

そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。

関前五丁目にて

この作品は、関前五丁目、行き交う人々と会話をしながら描いたものである。

今回は、4年前の夏に譲渡会でもらってきた2匹の猫（チャロとチャオ）を紹介したい。彼らが家に来た時は、まだヨチヨチ歩きだったが、1カ月ほどして小ネズミを1匹捕えてきたのをきっかけに、まるで居住権を獲得したかのように、家中を走り回るようになった。その後は、少しおとなしくなったものの、食事は普通の猫食では飽き足らず、時々おやつなどを欲しがるようになり、我々を困らせるようになってきた。

昨年あたりから、元気なチャオは家の小窓から表に飛び出し、外で遊んでくるようになったが、足腰に自信のないチャロは表に出られず、かわいそうな気がしている。うちの猫たちは、人に抱かれることは好まないが、夜中に布団の中に潜り込んできたりして、我々とのスキンシップを保っている。しかし、私はいつも家族から猫ばかりと冷やかされている昨今である。

大須賀一雄（おおすか・かずお） 水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどで紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』（旅もようスケッチ会）ほか。2022年まで、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も30回を超える。